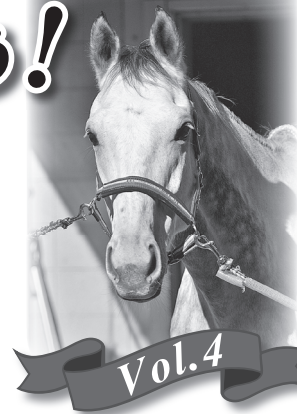


# ドレッサージュホースに育てよう!



3月14日に馬事公苑で行われた《スクーリングジャンプ&ドレッサージュII》のL課目にオースマイレブン号と出場しました。事前準備と実際の競技内容を報告したいと思います。

この馬が以前に出場したビデオを何度か見て、以下の問題点が確認できていました。

- 常に緊張で張りつめている
- コンタクトの不安定からくるリズムブレイク
- 速歩から駈歩への移行時に速歩が速くなり駈歩に移行しない

これらの問題が競技で起きることが想定されていたため、事前に改善するトレーニングを行うことができました。

まず、サラブレッドが競技本番に緊張することはよく起こることで、この改善については競技会を経験して馴れていくことが求められます。しかし、それ以外にトレーニングでできることはないのか?と考えました。競技で馬が緊張すると、普段トレーニングでできていることが競技本番でできなくなるのが根本にあると考えられます。では、実際の競技で馴らす以外に、競技本番でも緊張させないためのトレーニングとはどんなことでしょうか?

私が考える《緊張を緩和する方法》は、騎手が常に脚や鞭で推進を与えるのではなく、馬自身に前進しようという意思を植え付け、騎手が馬に与える扶助を極力少なくして、馬が自主性を持って快適に運動できる環境にしていけることです。馬の動きのリズムも馬が作るべきです。騎手が脚を使うタイミングでリズムを作ろうとしても、馬はその通りには動きません。もちろん、騎手は頭の中に求めるリズムを持っていて、そのリズムに馬が当てはまるように、ハミ受けを中心とする体勢と推進を整えてやるべきです。リズムを一定にするためには、馬の動き1歩ずつに脚を強く使うべきではありません。馬の前進氣勢を呼び起こすならば、馬が目覚ますくらいに一回大きく脚を使い、馬の明確なリアクションを得て、馬自らが前進する気持ちにしていきます。

それは、コンタクトに対しても同じことが言えます。いつも騎手の強い拳の力で馬の体勢を維持しようとしていけば、馬は騎手からの強い干渉に常に耐えていなければなりません。その状態は、馬にとって快適ではなく、心地よくスムーズに動けるはずありません。

しかし、上記のことに気を付けてトレーニングしたとしても、競技会本番の環境や状況によって緊張することがあるのが現実です。

今回の競技での反省点を以下の項目として挙げてみました。

① 速歩の弾発が弱く馬体全体を使って動いていなかった

これは、今後の大きなテーマになる問題です。この馬は膝を曲げて弾発を生むよりも、膝を伸ばしつつスイングしながら速歩をするタイプで、緊張と取られかねない部分があります。そのため、前駆だけが活発になるのではなく、前駆と後駆が繋がった収縮速歩を作っていかなければなりません。

② 「肩を内へ」の角度が浅いままになってしまった

速歩区間で左右2回ある「肩を内へ」の角度が浅くなっていたにもかかわらず、修正できずに終わってしまいました。「肩を内へ」は、一定の角度を保つことが求められており、一度決めた角度が浅すぎた場合、それを修正すると一定の角度ではなくなってしまうため、最初に決めた馬の体勢は非常に重要になることを再認識しました。

③ 駈歩運動の体勢がやや前のめりになり、ハミに重たくなった

トレーニングでは、駈歩のバランス改善に努め、その効果を感じることができていました。しかし、経路の流れになると馬のバランスが前のめりになってきたことを拳にもたれる強さで感じ取れました。トレーニングでできたことを本番に反映させる難しさを痛感しました。

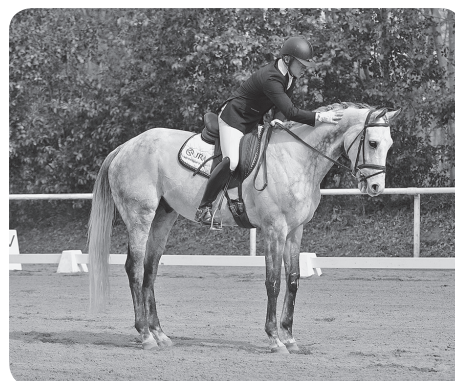
④ 運動全般の移行の繋がりが弱くなり、メリハリがなかった



移行を上手に行うには、ハミ受けをして透過性のある体勢にしながらも推進力が旺盛である必要があります。今回のベースの動きは推進力が不足しており、①での解説の通り弾発が不足していたため、結果的に移行の繋がりが弱くなり演技全体にメリハリがなくなっていました。

しかしながら、今回の競技でのオースミイレブン号には、とにかく馬が緊張することなく落ち着いて経路を回ることができることを求めました。その結果、ピリピリとした張り詰めた緊張は起こりませんでした。しかし、大きなミスはなくても演技全体に活気がないものとなってしまいました。私が最初から守りに入ろうと決めていたとはいえ、もう少し大胆に表現力を上げることもできたと反省しました。次回は、速歩を大きく動かし、全体的にアクティブに表現力を増した演技をしていかなければならないと思います。

現在は、推進力を増す⇒馬の口に強く出てくる⇒体勢を丸めるのに苦労する、というサイクルに悩まされています。今後は、如何にしてバランスが起きた状態で馬を丸めていくか、ということが課題になりそうです。



L1課目2013		H	C	B
【運動項目】				
1	A	6	6.5	6
	X			
2	C	6	6.5	6
	HK			
3	KAF	6	6	6
	FB			
4	BX	6	6	6
	XE			
5	EH	6	6.5	6
	HCM			
6	MXK	6.5	6.5	6
	KA			
7	A	6	6.5	6.5
	AF			
8	FS	12	12	12
	SHC			
9	C	6	5.5	5.5
	CHS			
10	S	6	6	6
	SH			
11	H	6	6	6
	SHCHSHG			
12	G	6	6	6
	M			
13	MR	6	6	6
	RF			
14	FA	5.5	7	6
	AC			
15	蛇乗り3湾曲	5.5	7	6.5
	中央線上でシンプルチェンジ			

16	蛇乗り3湾曲上2回目のシンプルチェンジ	6	6.5	5.5
17	CM	6.5	6.5	6
	ME			
	EVPB			
18	VP	6	6.5	6
	BRM			
19	M	6	6	6
	MCH			
20	HB	6	6	6
	BPVE			
21	PV	6	6.5	6
	ESH			
22	H	6	6	6
	HCM			
23	MXK	6	6	6
	KA			
24	A	6.5	7	7
	X			
手綱を伸ばした常歩でAより退場				
【総合観察】				
1	ベース	6	6.5	6
2	インバルジョン	6	6.5	6
3	従順性	12	12	11
4	騎手の姿勢、騎座：正確かつ有効な扶助	13	14	13
【得点合計】		175.5	184	175
【得点率】		60.517%	63.448%	60.344%
【最終得点率】		61.436%		
【総合観察所見】				
H もう少し活気がほしかったです。				
C コンタクトが一定になるといいですね。全体的な馬のバランスはとも良かったと思います。				
B 動き、コンタクトがなめらかになると良いですね。				